

『春日社司中臣祐範記』 元和九年

及幡
川鎌
一
巨弘

【解題】

本稿は新出の春日社司東地井（中臣）祐範（天文十一〜元和九年）の絶筆となった元和九年分の自筆日記を翻刻・紹介するものである。

東地井祐範は、天文十一年に、東地井祐父（永正十一〜慶長四年）の子として生まれた。永祿五年に二十一才で従五位下・宮内権大輔に任官、天正十一年に社司として加任預となり、以後、社内の臈次を上げ、昇進を重ねた。慶長四年正月、中臣姓の社家が春日大宮で就く極官の正預（大中臣姓がなる神主、千鳥家の家職であった若宮神主とあわせて三惣官といい春日社を代表した）であった父の祐父が亡くなると、後任の正預には今西祐國が就いたが、わずか三か月で死去し、次の臈次に当たっていた祐範が同年三月に正預の職に就いた。以後、元和九年に死去するまでの約二十五年間にわたり、豊臣政権から徳川政権へと移行する激動の時代にあつて、春日社のトップとして造替を実現するなど神社を支え続けた。また喜多院空実から古今伝授を受けるなど文芸にも秀で、数々の文人たちとの交流もあった。このようなことから、祐範の日記は近世初期の大和国の歴史・文芸の研究の上でなくてはならないものになっている。

祐範には子がなかったため、中東（大中臣）時広の次男祐長（左馬助、

文祿元〜明暦二年）を養子としていた。しかし慶長十九年から始まった大坂の陣に辰市祐員が大坂方について戦死し、辰市家がいったん断絶すると、中臣姓の本家が途絶えるのを惜しんだ一乗院尊政のとりなしで、祐長が辰市家を継ぐこととなった。東地井家は、祐長の子の祐言（寛永元〜明暦三年）が継いだ。七歳という幼少で祐範の養子となって薫陶を受けた祐長は、後代の鑑とすべく養父である祐範の日記を熱心に抄写しているが、そのような事情もあつて、祐長は八月二十三日で絶筆となる祐範の日記に、閏八月以降の分を自ら書き継いでいる。

祐範の日記は、祐長が家記を抜書きした「旧記勘例」（春日大社蔵）や「旧記抜書」（同蔵）の引用などにより、もともと慶長二年から元和九年までの二十七年分があつたことが分かるが、それらのうち原本の所在が判明しているのは後掲の表の通りで、現在、春日大社のほか、国立公文書館（内閣文庫大乘院文書）、および旧社家の二家に分かれて所蔵されている。また慶長十三・元和三年については近世の写本のみが伝わる。それ以外の年については現在所在が分からなくなっている。なお、日記以外に造替記・拝賀記なども残っている。

これらの日記自筆本・写本が複数の所蔵先に分かれた経緯は、いまのところ明らかではない。ただ、元和二年記には、社家の正真院家に所蔵

されていた同書を辰市家に譲り受けた旨が記されているから、早い時期から日記が複数の社家の間で所蔵されていた可能性が高い。同書に張り込まれた一紙には、祐範に関して、「生質有徳仁、於今二一社之龜鑑ニ仕ル」とあるから、祐範の日記が社家の間で重宝とされた可能性があり、さらに、嫡子として育てた祐長が辰市家を相続したこと、東地井家の子孫に養子が多かったことなどもその所蔵関係を複雑にしたのではないかなと思われる。

次に元和九年の祐範記の形態・内容について触れておきたい。料紙には楮系のもを用い、表紙共五九枚（墨付五八枚）。袋綴装。法量はタテ二六・二種×ヨコ一九・七種。表紙も祐範自身による原表紙と考えられる。閏八月以降の分については、前述のように祐範の養子であった辰市祐長が書き継いだものであるが、一冊の日記として伝存していることと、祐長が祐範の日記を引き継ぐにふさわしい人物であること、祐範の葬儀に関連する記事もあることから、併せて本稿で翻刻することとした。祐範が記した部分と祐長が追記した部分とは、料紙の大きさや質も変わらないことから、祐範の用意していた料紙に直接書き継いだものと思われる。

元和九年の祐範は、老病のために前年より体調が思わしくなく、社頭に出仕することもほとんどなくなっている。従って神事に関する記述も、祐長などからの伝聞によるものとなったり、あるいは省略されることが多いが、一方で彼を見舞う友人達との交友や、病中の慰みとして始めた小魚の飼育など、私的な記事が例年より多い。また体調によるものか、筆跡にはバラつきが見られる。八月以降はいよいよ衰えが著しく、日によっては筆を持つこともままならなかったであろうことが筆跡からも想像できるが、死の直前まで日記を書き残そうとした執念がうかがえる。もっとも、祐範は春日社自体やそれを取り巻く世情に関心を失って

《表》「祐範記」自筆本・写本の所蔵状況

年次	所蔵者
慶長三年	自筆本 春日大社〔日記六九〕
慶長五年	自筆本 内閣文庫大乘院文書〔二一三三七三〕
慶長六年	写本 内閣文庫大乘院文書〔二一三三七三〕
慶長七年	自筆本 春日大社〔日記七三〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長八年	自筆本 春日大社〔日記七四〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長九年	自筆本 春日大社〔日記七七〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長十年	写本 春日大社〔日記七八〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長十一年	自筆本 内閣文庫紅葉山文庫旧蔵「春日記録」六〔一四二一一七五〕
慶長十二年	写本 内閣文庫水野忠史旧蔵〔一四二一一八一〕※元和五年記と合綴
慶長十三年	写本 「歴代残闕日記」巻百七
慶長十四年	自筆本 春日大社〔日記八二〕
慶長十五年	写本 京都大学・勸修寺家文書〔安永三年に神主時康本を書写〕
慶長十六年	自筆本 春日大社〔日記八七〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長十七年	自筆本 辰市家〔東大・史料謄写本2073-378〕
慶長十八年	自筆本 春日大社〔日記八八〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長十九年	自筆本 春日大社〔日記八九〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
慶長二十年	自筆本 春日大社〔日記九五〕〔東大・史料謄写本2073-377〕
元和二年	自筆本 辰市家〔東大・史料謄写本2073-379〕
元和三年	写本 内閣文庫大乘院文書〔二一三三七三〕
元和四年	自筆本 個人蔵
元和五年	自筆本 春日大社〔日記一〇一〕〔東大・史料謄写本2073-63〕
元和七年	写本 内閣文庫紅葉山文庫旧蔵「春日記録」七〔一四二一一七五〕
元和八年	写本 内閣文庫水野忠史旧蔵〔一四二一一八一〕※慶長十年記と合綴
元和九年	写本 「歴代残闕日記」巻百七
元和九年	自筆本 春日大社〔日記一〇五〕〔東大・史料謄写本2073-63〕
元和九年	自筆本 春日大社〔日記一〇七〕〔東大・史料謄写本2073-63〕
元和九年	自筆本 個人蔵

※川崎佐知子・幡鎌一弘作成。所蔵先で目録化されているものについては（）内にその番号を付した。また「東大・史料謄写本」としたものは、史料編纂所に謄写本があることを示し、あわせて架番号を付した。拝賀記・造替記等は除いた。

るわけでは決してない。元和九年は江戸幕府の將軍職が二代の秀忠から三代の家光に譲られることになり、將軍宣下のために秀忠・家光父子が六月から閏八月にかけて上洛する。祐範の六月以降の日記からは、南都社寺の將軍父子への惣札の経過や、実際には実現しなかったようであるが、家光の南都見物への対応に追われた様子、また將軍への供奉のために上洛している幕閣や旧交の大名との交流の様子などが記される。將軍父子上洛に関連する記述は、絶筆となる八月二十三日の直前まで続いており、それらの記事からは、彼が將軍宣下や参内など將軍父子の動静に關してほぼ正確に把握していたことが分かる。元和九年の將軍父子の上洛に関する南都関係の史料は、この日記を除いて極少であり、この日記のみから知られる事実もある。その点でも非常に貴重な史料と位置づけられる。

※本稿は東京大学史料編纂所特定共同研究「春日社旧社家「大東家史料」の調査・撮影」(二〇一二年、代表・藤原重雄)の研究成果の一部である。

また、翻刻にあたっては、春日大社で行っている「祐範記」の輪読会参加の皆様から貴重なご意見を賜った。記して、お礼申し上げます。

【凡 例】

- 一 漢字は原則として常用漢字を用いたが、一部正字も用いた。また変体仮名は現代の仮名に改めた。
- 一 本文は追込みとした。
- 一 丁変りは「」で示し、丁数・表裏を傍注した。
- 一 表紙・後筆等は「」内に記して本文と区別し、()で傍注した。
- 一 校訂注は「」で傍注した。
- 一 虫損等により判読できない箇所は□で表した。
- 一 文字の書き直しがある場合は、本文中に訂正した文字を入れ、元の文字に×印をつけて傍注した。
- 一 適宜本文中に読点・並列点を加えた。

【史料本文】

「着到統番神主方也、白散神主取之、」

〔大東家〕

元和九年癸亥記

副番織事、当年者当職也、

正預從三位中臣祐範(東地升)〔花押〕

長者殿下(表紙) 九条殿忠1宗公2

曹弁 竹屋殿(前)

寺務一乘院殿 尊覺法親王

權別当 松林院家(正親之) 權僧実性2

五師

窪軫經院 延宗房

三学院 顯実房

明王院 尊識房

妙徳院 堯恩房

摩尼珠院 賢勝房

両惣官

神主從三位時広(中東)

正預從三位祐範

若宮神主祐紀(千鳥)

權官

一 權神主時家(中)

二 神宮預延豊(上)

三 新權神主師治(西)

四次預延通(天東)

五 權預祐為(新)

六 權預祐長(今西)

七 權預祐栄(千鳥)

八 加任預延倫(富田)

九 權預祐定(今西)

十 新預延種(天東)

中臣氏人

冠者延高(天西)

冠者祐隆(辰市)

大中臣氏人

左京亮時久(中西)

宮内少輔時重(中)

刑部少輔師勝(西)

民部少輔家綱(中東)

中務少輔師信(向北)

散位時氏(中西)

散位經忠(正義)

冠者時房(中東)

散位時仍(奧)

南郷神殿守

春格(タチ) 春在(リ) 春祇(アサ) 春玉(タマ) 春重 春能

北郷神殿守

利尚 徳仲 基慶 守理 基久(正月三日死去、従旧冬久病、七十八才ト云々、)

南郷常住春房 北郷常住守通 若宮常住上番宗名 下番春種

元和九年癸亥正月以来御神事記、

天下太平国土安全寺社繁昌幸甚々々、

正月小

元日

一日、船戸屋早天祝儀、従当職沙汰之、餅・酒如例用意之、

一御強御供、両惣官分迄也、音楽奏之、

一御強御飯大采桶(菜)二一坏、大豆・塩副テ大炊ヨリ送之、各賞翫之、

一酒殿新左衛門円鏡一面・樽一ツ持參、例年祝儀也、酒給之云々、

一昼御神事如例、

一句・日並朝夕・臨時四種・神戸(大柳生庄、從勸修坊調進、)

一出仕之次第如例ト云々、各裾引之、氏人狩衣・淨衣等也、

一神殿守禪釋引之、

一音楽奏之、

一白散供之、

一常住八丈引之、両惣官三十枚、権官十枚、氏人三枚宛也、

一御神供以外遅々也、戌刻ニ至ル、御神供不出来故ト云々、社中油断故

神人等モ無沙汰、言語道断也、

一予所勞無平愈、又旧冬大雪一切不消、氷并氷角(ツラ)以外也、寒氣無是非故

不參申者也、

二日

一船戸屋嘉例、餅・酒従当職用意之、如例也、

一御強御供二ヶ度両惣官分迄也、音楽無之、

一従大炊御飯・大豆・塩如昨日送之、

一 昼御神事如例、

一 日並朝夕・出合（兼井）柑子庄、名主兩惣官、

一 音楽奏之、二 御殿日並朝夕樂所へ下行、円鏡者神主へ取之、

一 三日、船戸屋祝儀如例、

一 御強御供二ヶ度、兩惣官分迄也、音楽無之、

一 従大炊御飯如例送之（四才）下云々、

一 昼御神事如例、

一 日並朝夕・出合（柑子庄）・西殿庄節供本式（名主正預方）

一 日並朝夕樂所へ下行、円鏡者留之、正預取之、

一 白散供之下云々、

一 四日

一 従早天兩御門跡并權別当へ予代官祐長参上了、

一 船戸屋御魚始、去朔日句従当職出之、各賞翫之、

一 当年者船戸屋、新殿（新殿）・左馬助兩人迄也、

一 里へモ送之、祝之、内ノ者共各参社了、

一 今日御供若宮灯明ノ方へ下行、宮内取之、

一 日並朝夕・合場節供本式（四才）（名主祐定）

一 音楽無之、

一 従今日社司上首四人束帶、其外衣冠也、

一 氏人各浄衣、

一 五日

一 日並朝夕・四種（新免庄）、是者去年十一月延引分也、

一 六日

一 当番始、御酒申之、惣社御参会、タウフス斗物、其外看如例、

一 予不参、左馬助代官沙汰之、

一 日並朝夕・大田庄（本式）、音楽無之、

七日

一 船戸屋一献如例、

一 御強御供二度、兩惣官分迄也、

一 従大炊如例御強御飯上之下云々、

一 松林院殿御社参、祝詞師今西祐定ヨリ御幣紙十枚被送之、此三年不被

送之、内々雖申驚無同心、当年奇特也、一段若年無案内故歟、

一 喜多院殿御社参、御師経忠服中故、祝詞師祐長（五才）代官勤仕之、於船戸

屋如例一献進上下云々、

一 昼御神事如例、

一 日並朝夕・西山（名主）・出合（片岡庄）、名主兩惣官、

一 音楽無之、

一 白散供之、当年者神主拜領之、

一 節分、大豆御供米升二一升大炊へ下行、請二来也、此外無之、

一 節分、船戸屋一献如例、芋ノスイ物・大豆等調之、

一 八日 大雪、去年雪一切不消二又降続了、

一 御神事如例、

一 日並朝夕・本六種（新）（兼尾庄節供代）・八種（此庄）（是者去年九月九日延引）

一 本六種、職事神人御供所二取置テ十一日二鍛治方へ下行之、社頭へ請

二来了、如先例、

一 北郷方・若宮神主退出也、

一 早天、正桂為礼来臨、古酒樽一荷被持之、（其才）□々悦之、

一 九日、船戸屋本宮登山一献如例、酒ハ従当家進之、

一 妙徳院祈禱、（職）祓二祐長代官参勤了、

一 十日、番役代官二祐長参勤了、

一 金勝院・愛染院為礼来臨、昆布二束（金勝院、シヤウカミ）、紙一束（愛染院）、金勝院者内

一宗治^{十元}、三右衛門^{十元}年玉也、嘉例也、古酒一樽彦左衛門、ミコイ^二宗治被持了、

一十一日、旬如例、不參之間、其式不記之、
一当方衆結願也、

一門様御代官參、大門様御自身也、

一紀伊国へ新殿・向井殿・禰宜孫左衛門・忠左衛門下向也、^(七才)守護殿去
年以來御煩御祈禱之物被持了了、殊更失墜也、^(徳川頼宣)

一十二日、早朝、当職嘉例祝儀、餅・酒等、スイ物鯛、

若宮神主殿父子・今西殿・治部殿、向井殿者紀伊国へ御越也、從宮本
御見廻、新殿并禰宜衆同道、去年以來御煩也、御祈禱物持參也、職人
禰宜衆各來臨、主計笛神樂之秘曲吹之、

一大柳生・東九条・中城・大江庄屋・百姓等礼二來了、何モ餅・酒給之、
一正順房^{油煙丁}・永俊房來臨、正順房八十五才、一段堅固、食事別而此比受用

之由、雜談也、兩人何モ旧友也、^(七才)
一十三日、神主殿嘉例千寿万歳有之、予所勞故不參也、膳送給之、御懇
意也、

一左太郎為礼來臨、油煙一裹被持了、
一十四日、佐儀長作之、注連焼有之、

一暁天御粥役両惣官代、神主代^{時昌}氏人^{氏人}・正預代^{祐長}衣冠^{衣冠}・当番延通^{衣冠}、若宮
へハ当番渡之、支配一・二御殿両惣官、三御殿延通、四御殿祐長^赤・
時昌^{白土藏}、

一十五日、早天、粥悅之、^{サキヤウ}爆竹ホコラカス、
一樽^善專春房、一樽良意房、扇五本教春房、宇治柳二袋・極揃一袋紹意、

各來臨、盃出之、モチナトニテ酒有之、皆下戸也、^(八才)
一樽一荷^{カウシヤ}甚介、一樽・杉原二帖^{スタヤ}三右衛門、來臨也、酒・餅祝儀之躰也、

一十五日、松本節供^{本式}、朝御供一膳大工方へ下行、夕御供ハ此方へ取之、

社頭へ請二來了、直二遣之、神主方同前、

一十六日、恒例稜有之、所勞故不參、其式不記之、頭役者氏人衆也、
一祐長社頭ヨリ直ニ喜多院殿へ稜ニ祇候了、經忠代官也、

一從早天雨下、終夜不止也、^(八才)
一十七日、申、御田殖一円從拜殿執行也、

以外雨降了、乍去參詣群集ト云々、

一大門様嘉例御祝儀有之、社中大宮神主・若宮神主・大東・新・富田・
左馬助被召了、大東・左馬助・富田迄祇候了、芸能有之云々、禰宜治
左衛門大夫沙汰之、盡禰宜座也、五番有之、

一紀州ヨリ宮本使衆被帰了、祈禱一段御祝着由也、御煩一段御減氣之由
也、稜卷數・大樽^{一ツ}進上下云々、御取次衆各々へ油煙持參也、然共
一所モ不被納、何方モ無拜領由理也、

使衆新殿へ小袖^{二ツ}、向井殿へ^{二ツ}、禰宜孫左衛門小袖^{一ツ}、忠左衛門小
袖^{一ツ}、拜領之、重而以使者可有御礼由懇ニ被仰聞ト云々、^(九才)

一十八日、雨下了、
一十九日、日中以後ヨリ雨也、一門様嘉例之御祝儀、社中衆大神主父
子・若神主父子・富田・左馬助祇候了、

芸能禰宜弥三郎大夫沙汰之、惣座禰宜也、
一廿日、祐長上洛、今西殿同道也、

一廿一日、旬如例、不參故神前之式不記之、^{社司・氏人}無人ト云々、
一從喜多院様為御祝儀諸白両樽拜領了、左馬助へ油煙二裹被下了、

一廿二日、大東殿見廻、豆腐^{五丁}被持了、^(九才)
一廿三日、悲母御忌日、学順房齋ニ來臨了、同祐勝房齋ニ申了、
一采女殿御方懷妊也、為見舞忠兵衛殿夫婦來臨也、若神主殿雜作也、為
音信予ニモ杉原一束忠兵衛殿ヨリ給之、御機遣如何、産月ハ三月ト
云々、

云々、

一終日終夜雨也、

一廿四日、嘉例之地蔵講延引也、客人故歟、

一廿五日、左馬助下向、板倉伊賀殿・同周防殿へ從物社年頭礼、左馬助為使參了、伊賀殿ハ無対面、御酒被出之、乍去火氣不吞之、色代百疋給之、先々如此也、惡物也、周防殿者対面、一段懇二被申ト云々、

一冷泉殿御住宅松林院殿安内者ニテ令見物ト云々、次第〳ノ座敷驚目躰也、結構美麗事盡ト云々、從將軍様金五十枚拝領也、居所無不便様ト御内証故也、御家之名譽也、洛中ニハ無之程ノ儀式ト云々、

一廿五・廿六、大雨也、

一廿六日、関才次年頭為礼来臨也、油煙一丁念入タルヲ被持了、左馬助へ扇二本祝義也、

一廿七日、少天氣也、若神主殿客人衆被帰了、

一廿八・廿九、雨也、

二月大

雨晴畢、

一一日、旬如例、此中大雨故路次一段惡故不參了、神前式不記之、

一〇〳若神主殿嘉例之一万卷心経有之、不出仕也、心経百五十卷誦誦之、

一東北院殿去月御離寺也、依不儀也、去年御子誕生ト云々、此中之行儀言語道断次第也、広橋前内府御子息也、御容儀人愛随分之院家也、先

途モ探題マテ遂業、既被任僧正、知行者修南院・東北院兩院兼帶、非

不足、心易御身上ニテ如此惡行之心申、仏神之冥罰前業不知、如何、

院家之大小諸道具・院内之竹木迄沽却之躰也、中〳不及言語成下也、

内府者旧冬御他界也、無念ニ可思召ト御心中哀也、一段被懸御目、預

御許容候つる故、思出致愁嘆者也、

一四日、春日講、頭役中宮内少輔時重沙汰之、如例年、從兩惣官日並

御供一殿宛出之、予所勞故不能出仕、膳・鈴一双送給之、一段奔走也、

一入念入タル馳走也、事外雜作也、

晚ハ禰宜衆来テ大小鼓ニテ乱亂有之云々、

一五日、從曉天大雨也、連続ノ雨不正之式也、

一呪師走、三座ト云々、觀世座闕如也、從兩惣官如例御供一殿兩瓶宛出之、二瓶從神主出之、去年可被出事理運之処ニ、出納申トテ不被出、不謂、乍去神主殿間之儀候故、不及申事、毎度隔度也、正預方ハ御供瓶子以下大炊ノ下部致始末、猿樂へ交替スル事先規也、道具共又里へ持来之者也、

一六日、当番、雨後路次惡故不參了、如例当番酒、番衆師勝當番、・時昌雨晴、二〳・渡番・祐長正預代、

禰宜衆出納職事・殿番・膳部等一献二来者也、御供所之下部二人一献二来テ酒給之、

一從今夜參籠、左馬助沙汰之、

一七日、祐父御忌日、良懃房齋ニ来臨也、学順房ハ他行也、

一八日・九日、南大門能無之、仍テ社頭ニモ無之、

一猿樂衆皆上洛、從今日門ニ能有沙汰也、

一尾張中納言殿御成、申沙汰之、事々數御用意ト云々、大藏源右衛門德川義忠

大藏・大藏長右衛門小鼓、・弥右衛門狂言、被召置ト云々、御成御能觀世金剛

大夫・七大夫沙汰之歟ト云々、

一九日、門ニ能無之、社頭ニモ無之、

一十日、霰事外降了、南大門無之ト云々、

一十一日、旬如例、所勞故不參了、路次惡ト云々、神前之式不記之、

一先年諸庄刀大小、大閤依仰地衆へ被召置候、社中分少々失墜了、相殘

今度支配之、ワキサシ一ツ予取之、祐長一ツ取之、何モ不用之物躰也、

一大柳生ノ竹去年被切置分今度支配之、知行之高ニ付テ取之、予分大竹

一荷、ナヨ竹二三荷有之、祐長モ有之、

一今日南大門能有之云々、

一十二日、天氣也、門二能有之云々、^(二三)

一十三日、金春大夫社頭之能沙汰之、脇ノ能白樂天一番ニテ雨降出了、

今日能既ニ及申剋以外遅々也、猿樂遅參歟、又中坊左近殿遅參歟尋処

二、何モ早々參社也、下藹分一藹遅參、御廊不納故ト云々、限沙汰隨

意仕合不可然義也、及未代了、社中酒頭時広順役沙汰之、如例タウフ

ノスイ物・取肴ニテ御酒有之ト云々、^{雨晴了、}

一十四日、金剛大夫能ヲ沙汰了、

酒頭祐範順役沙汰之、一献之式如例、予不參、左馬助代官也、

一十五日、薪ノ能昨日ニテ相濟了、仏涅槃拜見了、

一十六日、精進、御經書写之、

一十七日、暁天ヨリ雨下、日中風吹了、

一十八日、猶雨也、^{天晴、(二三)}

一十九日、上ノ知行奉行向井殿・采女殿算勘被逐之、旧冬延引故也、

今日モ氣合煩敷之条、左馬助局ニテ沙汰之、餅^{二十}・豆腐^{三丁}・鈴被持

了、

一京ノ喜右衛門先日下向、ミヤケトテ豆腐^{五丁}持下之、今日上洛之条、

粽一桶遣之、

一廿日、雨也、於鶴女忌日、祐勝房齋ニ來臨也、

一廿一日、旬如例、先夜終夜大雨、猶降下了、然間不參、神前式不記之、

一戌刻、巳ノ稜、神主代治部少輔時昌勤仕之、作り社司ニテ氏人沙汰

之、先規也、御棚役九・十定役也、是モ作り社司ニテ沙汰之事、先例

有之ト云々、^{天晴、(二三)}

一廿二日、午ノ日御酒、両惣官代当番參勤之、其外者随意也、

一廿三日、悲母御忌日、祭中学順房無來臨、齋斷送之、^(同勢)

一廿四日、雨晴了、^(二十三日未ク齋ノコトナリ)未本式也、

一戌刻、御戸開、祭方神供飛鳥田也、

上役神宮預延豊、正預不參故也、精進料十疋代十合二斗遣之、從神主

式斗被出之、

一曉天、上卿御參社、^(云云)転法輪殿御宿與家綱館也、

上卿御參社依遲參、夜明過了、神前奉取納テ、五過ニ成了、以外延引

也、天氣快然々々、^(四)

一上卿ノ御幣一本、四手共ニ到来、殿番神人持來也、^{天晴、}

一廿五日、天氣也、

一廿六日、於一門樣能有之、大夫衆、中坊左近殿・金春大夫兄弟・大藏

大夫父子・金春又右衛門・六藏・金剛次郎大夫、何も一番ツ、沙汰

之、左近殿・金春・大藏大夫ハ二三番ツ、沙汰之、合十三番有之、

社中大神主殿父子・若神主殿父子・左馬助・富田殿、依被仰出見物ニ

祇候申候、寺僧衆數多也、御振舞有之ト云々、

一廿七日、雜仕弥左衛門ニツキ木頼入テ沙汰之、五六本アリ、^同

一廿八日、南郷神人^{前内膳子}甚藏補任遣之、一段不便、朝夕ノ炊サヘ斷絶云々、

此兄モ不便至極故、補任一円加扶持候条、重而難申由、内々歎由及承

候間、^(二四)遮而出之、一紙不及機遣候也、神奉公迄也、一段忝由悦申者也、

一拙老從旧冬持病再発故、正月ヨリ至于今閑居、一円他出不出、依之社

參不叶、今日天氣快然暖氣之条、兩社へ致參勤者也、宮廻ハ不成也、

社頭之梅花共盛見事也、致見物慰申者也、以外草臥云々、

一前下藹分一藹吉祥院罪科也、子細者、職之間山木ヲ方々へ許可シテ過

分ノ礼物被取事、以外也、依之、惣寺依評定今日罪科也、此中種々雖

及沙汰候、大門様御拘故延引、今度者中坊左近殿ニテ及対決、如此也、

尤也、高島禰宜辻子小路ノ諸門番屋以下迄盡山木也、則不空院ニ新儀

二番屋ヲ立了、其屋ノ見事杉ノ大木ヲ引破テ造之、今度可有破却由、

左近殿モ同心、從寺門公人・三塔以下迄雖被差上、禰宜内々種々致侘

事故、先左近殿掃宅迄之儀、七右衛門殿預リニテ、先当分^(一五才)延引、此事致棟梁禰宜モ曲事之条、可有罪科儀候由、左近殿雖申モ、其段迄者追而之事可然由也、尤之被申分也、他国人ニモ非ス、山木恣ニ沙汰スルコト、從昔堅以法度也、乍存知企惡逆事限沙汰也、時刻來レハ如此成下、神罰歴然也、

一廿九日、雨下、久助ヨリ江州鮒^二到来、又治部少輔殿ヨリ^二送給之、則調味一段殊勝也、当年初物也、

一彼岸講廻文有之、明日晦日可有沙汰由也、年預若宮神主殿ナリ、予春季也、御懸米当器式升遣之、御齋有之、

同日御供向并殿へ遣之、先日雇申礼也、

一晦日、彼岸講^{中日}、若神主殿頭役御齋種々馳走也、酒肴念入也、飯後又盃被出之、御酒濟々也、昨日昼夜雨也、今日モ日中迄雨也、午時過ヨリ雨晴了、^(一五ウ)

三月大
晴天、
一一日、旬如例、昨日之雨故路次悪故、不参也、
神前式不記之、今日者天氣吉也、

一嘉例節供祝儀沙汰之、

一昨日京都土左御局ヨリ江州鮒被下候間、振舞申者也、一段見事珍物也、

一大神主殿・治部少輔殿父子・若神主殿父子・今西殿・此辺女房衆、各御出也、正真院殿服者別火所にて沙汰之、

一奥殿へハ膳・鈴送之、

一石藤殿風氣トテ無御出也、^(十六才)
同日、決疑抄伊勢物語、^(細川勝憲)玄旨三光院殿ニ聽聞候問書也、立德ニ借用并もしほ草一帖同借用了、^(三系西実松)

同日、御節供、日並朝夕・四種^{西殿庄}・神戸^{福智庄}・奄治^{節供本式}・名主正預、一音楽奏之、一ノ御殿日並朝夕、楽所へ下行、

不参之条、神前之式不記之、

一御神供以後、職人禰宜衆夕飯ニ来臨也、

一宗利從江戸掃宅、ミヤケトテ鶴ノ羽片羽・鈴^一被持了、左馬助へ一羽、一段見事也、當時数寄茶湯ニ一段賞翫ト云々、

同日、神主殿ニテ嘉例日中飯振舞、惣社参会也、予所勞故不参也、膳・鈴送給之、御懸意也、^(同)

同日、月次連歌、頭役祐長、從朝飯各々出座、人数之事、大神主殿^(同)父子・大東殿・采女殿・金勝院・永世・予・祐長迄也、執筆祐定、酉上剋ニ満座了、

同日、当番ニ参勤、從旧冬正月・二月所勞故不参、今日暖氣始而参社、

神役沙汰之、満足也、^(從曉天雨午剋晴了)

一七日、從曉天雨降了、午剋ニ晴了、神役不参、代官祐長勤仕之、

一祐父御忌日、学順房齋ニ来臨了、

一從高島立タル不空院ノ辻子ノ番屋并下高島ノ番屋、先度蜂起之御、可有破却ニ治定之処、七右衛門殿拘ニテ今迄^(一七才)延引、寺門并左近殿無同心ヤラン、両所ナカラ破却了、不空院ノ番屋ハ壞テ真中へ取出、盡々被焼失了、下高島番屋ハ不残三塔是ヲ破取之、從昔無之事ヲ興行、曲事也、前一藤依私曲山木ヲ恣ニ許可故也、^(晴天)

一八日、当番不参、代官祐長勤仕之、

久左衛門・三郎右衛門白毫寺へ参詣トテ立寄了、餅・酒出之、数剋物語、白毫寺一段見事ニ成タル由也、喜多院様御一身ノ御苦勞也、晚ニ永春^(後カ)来臨、盃出之、社頭へノ次也、祐長同道也、

同日、終日雨降了、風モ少々吹了、番役不参、代官祐長勤仕之、夜中雨雷事々式也、

同日、雨故不参、代官祐長、午剋少晴了、^(一七ウ)一久左衛門ヨリ白椿一枝、苜^(音)一折到来了、

一内記礼二来了、江州鮒^三・樽一荷持了、西殿庄任料銀子五十五匁上之、八木式石代也、任例用捨了、加藤左衛門旧好故、其跡式故也、三月三日・七月七日四種、正月三日節供三ヶ度也、神主殿方毛被仰付ト云々、一從今日初音卷始之、一瓶采女殿御持せ也、^{晴天}一十一日、旬如例、此中大雨故路次悪故不參了、諸式不記之、一立德へ振舞沙汰之、紹意并右衛門殿同道、八時分より也、江州鮒到来、一種也、從紹意菓子一盆到来、ヤウカン以下也、^{ウスカハ}一饅^三三十被持了、^(八)一十二日、金勝院月次沙汰之、從朝飯出座也、庭前之^(八)糸桜盛也、大木一段見事也、於当所社頭并此一本也、酒一円不成無曲也、永世用捨トテ不出也、^同一十三日、勘兵衛門二今日御供遣之、先日紙^{十五枚}持參ノ返礼也、^同一大柳生順実見舞トテ大栗^{四十二}持參了、月次出座ニテ無対面、^同一十四日、采女殿振舞、從日中飯終日済々也、大神主殿・予・左馬助・今西殿、無余人、心静一日思出也、江州鮒・鱒一段之珍物共也、鱒無塩也、風味言語道断也、^同一十五日、正順房月次沙汰之、從朝飯出座、終日種々馳走共也、人数予・左馬助・永俊・正桂・宗治・宗利・亭主七人也、宗利旧冬江戸へ下向延引分也、^(二)一今日御供善介二遣之、先日為見舞鈴持參、則返礼也、^同一十六日、西京大工二人、源十郎・甚七兄弟二人南方ニ材木置処沙汰之、南ノ堀へ作り懸タル三間・二間也、材木不事闕也、^{雨少下、}一十七日、大工有之、^{同雨少下、愛染ノ奇特也、}一十八日、大工有之、小屋柱立之、雨止了、愛染ノ奇特也、^同一今日於西大寺別受戒有之云々、西大寺・法花寺末寺之律僧・御尼衆盡々出仕ト云々、道明寺法花寺末寺也、行儀法度無之云々、自齋毛無

之、其外戒行一向非本式、從本寺雖及札明無其詮云々、惣様富祐二御成故也、末世也、^{晴天}一十九日、大工有之、小屋出来、屋根葺之、^(九)一從若神主殿鯨ノ内ノ物一鉢給之、無比類珍物也、^同一廿日、大工有之、今ハ上下ノ雪隠沙汰之、^同一於鶴女忌日、祐勝房齋ニ御出也、晚ハ少雨下、夜中雨也、^同一廿一日、旬如例、昨夜雨故路次難儀故不參了、^同大工兩人有之、^同一廿二日、大工一人、茶屋水棚沙汰之、^同一廿三日、悲母御忌日、学順房齋ニ来臨也、^同金勝院月次二出座、永俊頭役、各從朝飯出仕也、^同小鮎一鉢野田主水ヨリ到来、水棚出来了、大工一人、^同一廿四日、大工一人、北ノ方雪隠并屏修理加之、柱取替了、^同一從金丞花三色・鈴^一到来了、^(九)一從金勝院昨日残酒トテ古酒一樽到来了、^同一從笠坊江州鮒^五送給之、^同一從小鮎一鉢采女殿ヨリ到来、^{神人}野田筑後為見舞一樽持參、酒進之、^同一廿五日、大工有之、北ノ屏柱用意之、^{日中以後雨下、ヤカテ晴了、}大藏源右衛門夢想興行、從朝飯ヨリ出座、終日種々馳走也、祐紀・時昌・祐長・祐栄・予、其外西里衆也、ハヤシ可有之歟ト存処、源右衛門明日紀州へ罷越、取乱故無之、連歌ハ八時分ニ満座了、^同一廿六日、大工沙汰之、^同ウト一盆、左近左衛門ヨリ到来了、^(二〇)一無塩ノ鯛一ツ正真院殿ヨリ到来了、^同一廿七日、大工二人、源十郎来了、北ノ屏・雪隠以下立之、

一昨夜采女殿御方産、ヤスくト御沙汰、前後少モ無煩也、母子共二息災也、シカモ男子也、一段大慶也、

一廿八日、大工二人、源十郎兄弟甚七少煩了、廳而無異儀也、
一采女殿ヨリ兩種鯛モチツクリテ、鈴一双、則賞翫了、

一廿九日、大工二人、北方雪隠・屏出来也、一段可然也、
小鮎一鉢左近左衛門ヨリ到来、則賞翫也、

一廿八日、采女殿へ餅・酒樽一荷音信沙汰之、左馬助參了、

一廿九日、左馬助局天井沙汰之、大工二人、
一土佐御局今日御帰京之由、喜右衛門預御使、手前取紛殘多躰也、桑柄ヌリ团扇一本遣之、満助力親先日扇持来返礼、桑柄团扇一本遣之、竹柄一本喜右衛門二遣之、

一晦日、大工二人、左馬助局天井沙汰之、
同、四月小

一一日、旬・日並朝夕・四種北郷南門講音楽奏之、
一白杖ウケ春格、御幣春在、散米春祇、

一社司、時広・祐範・時家・延通・祐為・祐長・祐榮・延倫・延種・祐紀、不參、延豊・師治輕服・祐定、中臣氏人無出仕、大中臣氏人、時久・時重・師勝・時昌・家綱・師信・時氏・時房、

一旬菓子山芋・串柿・今一種赤小豆切餅代備進之、
一塩引干鮭備進之、焼物塩鯛備進也、

一正月以来今日始而旬參、老足難堪也、神役二ハ斟酌了、老躰故也、
一大工二人、左馬助局天井大略出来也、

一笠坊ヨリ難去承故、新哥仙哥書之、今日出来也、老筆迷惑也、
一二月、大工二人、左馬助局ノ用也、

一二月、水屋神楽拝殿ヨリ沙汰之、
同、

大東殿御尋、豆腐五丁御持せ也、

一牡丹花盛也、嘉例之振舞沙汰之、野田久左衛門・三郎右衛門・主水・理兵衛・筑後・左近・圖書・弥左衛門・左近左衛門・勘兵衛・嘉兵衛・甚介、以上、從日中飯中段・後段沙汰之、
(三ツ)理兵衛御影堂扇二本箱ニ入テ持来、箱一段念入見事、御影堂扇似セ物出来ニシテ笑止之躰ナルニ、門前ノ物共皆払出シテ以外結構ニ成タルト也、名物限ニ退□之躰ナルニ近比ノ義也、

一三日、水屋神楽南郷方芸能沙汰之、水屋上分宮司衆上之、白餅・赤小豆餅二・ワカメ一把・串柿一串・フキ・ヲコシ米・ハス・シトキ・イリマメ等也、一餅、以上水屋、左近左衛門、一銚子・アツキノ餅二・ヲコシ米・ハス・シトキ等、孫右衛門、榎本分、一銚子・アツキノ餅二・ヲコシ米・シトキ・マメ・ハス以下、紀伊社、久次、

一立德振舞、珍物共濟々也、雁ノ汁、塩引有之、一段見事也、無比類風味也、從奥州持上了、此一種ノ約束也、自余物無益也、牡丹花下終日興遊、当座アリ、人数、采女殿・左馬助・予・永俊・正桂・紹意等也、
美麗肴有之、

一四日、水屋神楽、南郷方、能有之、
一牡丹見物トテ正順房・永俊房・正桂・宗治・宗利来臨也、酒肴預懇志也、(符之)志也、

一五日、水屋神楽、若宮方、能有之、
一笠坊諸白兩樽被持了、哥仙ノ礼也、

一大神主殿日中飯振舞也、笠坊御出也、終日慰了、
一兩常住注進上、只今水屋近辺ニテ一人殺害、死人在所ハ水屋ノ辰巳方、安居ノ北辺也、早々穢物可然由申、則兩常住兩職事相副、一藤并別会五師へ申遣処ニ、意得通返事也、

一其後廳而、最前死人ノ親兄弟衆馬上ニテ、從郡山カケ上リ、水屋辺ニテ左近殿ヲ尋、則及鬪諍、左近殿衆取合、当座ニ四人殺害了、左近

殿衆モ三人死了、其外双方手負万多也、郡山衆百余寺中ニ逗留シテ種々存分不相果、是非左近殿ニ懸御目、自他存分ヲ不承届、郡山へ可罷帰様無之トテ逗留ス、從一門様種々被仰出候へ共不成、寺衆老僧数多出合懇望ナレ共、無同心、其中ニ從一門様大藏源右衛門・同長右衛門・同弥左衛門ニ御使被相副、郡山へ被差下、然者郡山年寄衆罷上、大方指引相濟鉢也、兩惣官代・若神主代、御門跡様兩所・喜多院殿・權別当へ申入、社頭之事笑止之式也、早々穢物取退候様ニト申入了、

同、六日ニ至テ其マ、有之、双方同前也、

一六日、当番不参了、代官祐長沙汰之、參籠同前、

一從一門様郡山へ左亮殿(原觀之)・宮内卿殿御使ニ被遣候処、下総殿被仰様(松平忠明)「(三三才)一段有様結構也、惣別奈良中見物之事、從最前堅致抑止了、見物ニ罷出事近比曲事也、剩致狼藉太以曲事也、及当座殺害尤之義也、於下総聊以存分無之、罷上タル仁鉢共、何モ腹切歟、知行召上歟、可被申付由也、又兩惣官代・若宮主代一門様并左近殿へ申届、兎角是非ノ沙汰、

追而可有御糺明、先以一時モ急キ穢物ヲ退ケ申候様ニ、可被仰届由申届処、郡山返事ヤカテ可相聞、今少之間也、無油断由左近殿返事也、

双方死人于今有之、郡山返事ヲ被待由也、余以水屋神楽増長新儀非例無度量仕合故、如此之義出来也、

一午下剋ヨリ雨下、此中待カネタル雨也、先以珍重也、

一從正桂牛黄円一頁并堺ガサウ一箱到来了、懇意共也、

同(三三才)一七日、番役祐長代官ニ參勤了、

祐父御忌日学順房齋ニ来臨也、

大工有之、内儀ノ東ノ方修造了、

サ三三才三右衛門菓子一折・古酒兩瓶持せ也、菓子三種念入たる義也、

同、一八日、当番代祐長參勤也、

一若神主殿嫡孫誕生祝義トテ各へ御振舞、日中以後鮑ヲ入テ餅シタ、メ

タル也、スイ物鯛、其外鮒鮮ナマナリ、鯨ノ内ノ物、此兩種珍物也、其外種々肴、無是非大御酒也、庭前藤盛也、一段当年者別而見事也、又盃被出酒宴有之、人数、中殿父子・大東殿父子・新殿・形部殿・向井殿・左馬助・治部殿・予也、大神主殿客来有トテ無御出也、

同、西下剋ヨリ雨下、

一六日、当番代祐長參勤了、

一左近左衛門振舞、從日中飯迄終日種々馳走也、大神主殿・若神主殿・治部殿父子・左馬助・予、外人無之、終日慰也、振舞過タル鉢也、

雨天、一十日、当番代祐長參勤了、先夜雨也、明テ止了、

少雨下(三四才)一十一日、旬如例、雨少降故不参了、若神主殿モ不参ト云々、若宮

一十二日、於大東月次有之、連衆如例、從朝飯出座了、八時分ニ満座也、振舞一円精進也、

天晴、一十三日、

同、一十四日、於大東殿毎年之日次連歌有之、出座了、晚炊振舞也、乗物人

少雨下、

一十五日、中沼左京殿ヨリ生貝十送給之、七ツ宗治へ遣之、為明会也、

椀物屋与一一郎為見舞来臨了、鳩塩鳥五持参了、一段重宝也、餅・酒給之、

一十六日十六日剋先夜大雨、一段珍重、

一於宗治月次有之、從朝飯出座、終日種々馳走共也、

十六日午剋迄大雨也、万民安堵也、久敷雨不降也、

同、一十八日、当番代祐長參勤也、

一若神主殿嫡孫誕生祝義トテ各へ御振舞、日中以後鮑ヲ入テ餅シタ、メ

同、一十九日、当番代祐長參勤也、

一若神主殿嫡孫誕生祝義トテ各へ御振舞、日中以後鮑ヲ入テ餅シタ、メ

晴天、(二五才)一十七日、大東殿日並、祐榮發句也、予昨日之連歌草臥故不參了、酉

下刻ヨリ終夜降了、

同、一十八日、宗治先会礼トテ来臨也、鈴一被持了、

宗利来臨了、夏酒アケタルトテ鈴一被持了、一段殊勝也、

くこ一折大東殿ヨリ到来了、粽一盆采女殿被持了、

雨天、雨ハ止了、一十九日、くこ・苜若智禰宜左近ヨリ来了、

三郎右衛門・弥左衛門為見舞来了、アマ茶一器三右持せ了、夏酒アケ

タルトテ鈴一双弥左持せ了、肴用意シテ酒有之、鮓二正真院ヨリ到来、

当年初物也、

晴天、一廿日、明日旬相調、如例時刻ト云々、出納長右衛門案内也、

大神主殿内儀ヨリ饅丸送給了、大神主殿次第無殊事由也、

於鶴女忌日、祐勝房齋二来臨也、

同、(二五才)一廿一日、旬如例、所勞故不參了、今日戒重御供備進也、名主料米到来也、從中

坊左近殿豆飯・結樽一被送之、於社頭賞翫、相殘於神主殿各参会、予

不罷出也、三方神人中拜殿へ被送之云々、今度ノ祈禱也、豆飯一重・

鈴一双送給了、御懇意也、

晴天、未下剋ヨリ雨下、終夜雨大風也、從暁天ヨリ止了、

同、一廿二日、百日參籠可有沙汰由也、番帳披見了、

一廿三日、悲母御忌日、学順房齋二来臨也、

赤小豆餅一重祐勝房被持了、則受用、一段吉也、

雨天、風吹一廿四日、地藏講有之、雨故不參、御經二三行書之、卷ノ末也、

晴天、成刻雨下一廿五日、金勝院月次、從朝飯出座、正知頭役種々馳走也、

晴天、(二六才)一廿六日、少雨下、

同、晴天、一廿七日、從弥左衛門草花色々到来、芍藥二色・杜若二色・芥子二色

菊一枝、是ハ初花也、イツレモ見事也、
大神主殿内儀ヨリ竹子五本給之、

晴天、京ミヤケトテ麩十今西殿ヨリ到来了、

同、一廿八日、

一廿九日、若神主殿産所開也、若子社參也、当家へモ祖父同道ニテ御出

也、赤飯一箱・カマス一連・コフ一束・樽一荷被持了、名御所望之間、

藤菊殿ト付了、從是両金扇一本未ヒロカリ遣之、親父祐榮モ名付親也、

達而雖及辞退、嘉例之由御理故同心了、珍重々々、酉下剋ヨリ雨、終

夜降了、

晴天、(二六才)五月大

一日、旬如例、不參了、老足不如意故也、

一如嘉例節供振舞沙汰之、若神主殿父子・治部殿父子・今西殿、大神主

殿御煩故無御出、膳送之、

奧殿へモ膳・鈴送之、

若神主殿・今西殿女房衆各御出也、

正真院殿別火ニ申付了、甚藏者一廻服開了、川ニテ髮洗コリカキテ散

花沙汰之、

菩提山識舜房為見舞来臨也、唐物一袋一段甘味軟ニシテ菓子無比類

也、京ノ粽三十從若神殿送給之、

晴天、(二七才)二日、久助次男四郎五郎補任出之、鮓五・鈴一双持了、任料ハ秋迄延引也、

竹子一段見事之一箱從正真院殿到来了、

晴天、三日、見事之竹子從大神主殿給之、御煩気色無異儀、脈躰可然由、医

者被申由也、

晴天、午去度々雨下、夕立キタリ、四日、戌剋ヨリ、

從正桂両瓶到来、一ハ古酒、一ハ当夏酒ハシリ、何モ殊勝也、

晴天、端午五日、御節供、日並朝夕・八種名主殿庄、・神戸名主・奄治名主音楽奏之、

二御殿日並朝夕樂所へ下行也、

予不參故神前之式不記之、神主殿モ煩故不參也、

一如例御神供已後夕飯ニ職人禰宜衆來儀也、^(二七ウ)

從宗治祝儀トテ諸白・鈴^一又到來了、

一六日、当番不參、代官祐長、參籠モ沙汰之、大神主殿日中飯如例參

了、煩候儀雖無異儀、次第機遣也、

日並發句沙汰之、月は秋ゆく影久し天原、

一献、餅・菓子・豆腐・コンニヤク・干蘿・芋・竹子等、一樽送之、

懷紙出之、松林院殿御出座、

宗治鱒ノ鮓^一、正知古酒兩瓶持せ也、日並同道了、

一清祓ノ事、一門様并寺門、左近殿へ相届了、何モ意得由也、兩惣官代

二大東殿加テ使節也、

一七日、当番祐長代官ニ參勤也、

祐父御忌日、学順房用所トテ無來臨也、^(二六ウ)

南郷一藹^{与介}明日灯呂鈎之トテ鈴一^二双持參了、

在所ハ舞殿丑寅ノ角、何ニモ不相構由、直ニ承了、

雨風也、風ハ戌亥ノ時ヨリ止了、雨終夜降也、大神主殿同前也、昨日

ヨリ笠坊寮治也、葉無異儀、先以珍重々々、

一八日、当番代祐長參勤也、

一九日、当番祐長代官ニ參勤了、

一大神主殿西剋絶入トテ左馬助急ニ注進、走付処ニ雪隠へ御出ニテ、手

間入、絶入ト云々、無異儀蘇生也、当番籠向并殿雇申者也、從兼而約

東申者也、九日・十日番役モ向并殿頼申者也、

一十日、大神主殿今日ハ無異儀躰ト也、乍去落居大事也、笑止々々、^(二八ウ)

一十一日、旬如例、不參了、大神主殿煩之儀、從曉天様子一段^(二八ウ)悪成夕

ル故、左馬助モ不參也、無心元故看病ニ無隙也、大事也、

一十二日、大神主殿大事ニ成タル由、申來了、

今日御供、向并殿へ遣之畢、

一妙徳院被ニ向并殿雇遣之、大神主殿見舞參了、今や〜ト成て于今延

引、葉一包可出由、女房衆依懇望遣之、様子今ハノ躰也、

一十三日、辰剋神主時広死去^{六十七}、神主職廿年治世也、冥加者也、男

女子息六人、京都土佐御局腹ニ先皇ノ宮様二人誕生、兄宮様者白川^{照院}

御門跡也、御領千石御門家一段見事ト云々、從將軍家依御意板倉殿父

子一段馳走也、次ノ宮様モヤカテ可有御有付由也、

一中殿へ使ヲ以テ当職珍重ノ礼申遣了、明日御神供祝儀トテ遣之、使ニ

酒給之云々、西殿權神主殿・中西殿新權神主転任ノ一礼申遣之、

一十三日、一ノ御殿御供拝領之、未補故也、諸神ノ中水屋三坏・庭主

曲二坏、少神供有之、取之、二坏久助・三坏三郎右衛門ニ給之只今

者此外無之ト云々、^(二九ウ)

一十四日、從中殿宮内殿ヲ以テ昨日之返礼、今日神供祝着之由也、

一十五日、一ノ御殿拝領、小神供如昨日三郎右衛門ニ申付了、

時広葬送日中以後ト云々、雨故笑止也、

一西殿庄出納可有改易由、内記・若宮忠左衛門歎申、度々申來了、乍去、

此職久敷持來躰、替目之時面替ノ礼出之持來也、今度可有改易トテ從

正預助言不成、他方ノ義也、惣様定モ無之上者、兎角不及指引、跡職

上次第二被申付之間、其時ノ社務ノ可為分別次第、幾度モ佗事、可然

由申聞了、

一十六日、一ノ御殿拝領了、小神供同前三郎右衛門ニ申付了、

恒例被有之、雨後道惡故不參、頭役氏人衆ト云々、^(三〇ウ)

一十七日、中殿京上下ト云々、長者宣申也、事外遅參也、

一ノ御殿御供拝領、兼帶故也、小神供同前也、三郎右衛門ニ申付了、

一十八日、一ノ御殿御供并小神供拝領也、神主兼帶也、

拜殿南円堂講臨時備進之、一・二御殿拜領之、

犬皮一箱・諸白両瓶從紹意到来、宇治へ越由申云々、

一十九日、一ノ御殿御供并小神供拜領也、神主兼帶也、

權神主殿鈴一又被持了、旬祝詞相伝之事懇望之条、則伝（稔）受了、念入奇特也、

若宮勘兵衛為見舞鈴一又持參了、則對面菓子出了、

一廿日、左太郎為見廻來臨、諸白樽一荷持せ也、一段殊勝也、

一十三日ヨリ今日迄神主兼帶、御神供・小神供以下拜領之、未補故也、

一明日御供案内来了、何も相調、鮎無到来候間、焼物鯛備進云々、

同日申剋神主職長者宣下着候由、申来了、立文也、使北郷職事也、彦

右衛門卜云、先職より職事也、長者宣一紙写進由之文牒ナル共、不来也、失念歟、則拜見之通返事沙汰了、

則長者宣正文持せ給候間、拜見候て返進了、

一廿一日、旬如例、不參了、其式不記之、

一經長一廻作善有之、法花同音、羅漢供有之、日中齋二參了、西殿父子・

道七御出也、

一權神主旧記所望之条、撰之、五帖有之、乍去国替以前之記録當時分

式二不相当、乍去昔之跡可有糺明トテ、記録五帖遣之、形部殿一交替

了、經忠直二渡候、一覽之後可返給由也、

一金勝院為見廻御出也、饅頭十四被持了、

一鮮（三）五・鈴一大、為見廻從奧殿送給之、

一京ノ大仏餅三從采女殿送給之、

一終日正真院殿ニテ日記撰之、晚炊麦飯振舞也、

一戌剋ヨリ雨下、終夜不止也、

一廿二日、奥殿為振舞申入共、參籠トテ無來臨也、

一大東殿為見廻御尋、竹子五六本持せ也、一段見事、大サ驚目物也、

舟戸屋井へ鹿子落入テ死了、則職事ヲ以テ下藪分（下）一藪へ届候処、意得由返事也、ヤカテ清メ可申付通也、

一廿三日、悲母御忌日、学順房齋ニ來臨也、

宗治為見廻來臨、諸白両瓶持せ也、

一廿四日、地藏講、御經取寄、二把書写之、

一廿五日、正桂月次頭役、朝飯ヨリ出座、終日種々念入タル（三）コマヤカナル事共馳走、不及是非、連哥八時分満座了、夕飯迄抑留也、一段慰

共也、

一廿六日、葵三本・竹子一把梅木持參了、

マメアメ一袋五十余南郷形部持參了、

一高安太郎左衛門ヨリ羊羹并白瓜一送給了、瓜初物也、時夜（雨カ）、終夜雨也、

一廿七日、副番織直了、祐紀・師信雇申者也、日中飯ヨリ御出、夕ハ粥振舞也、

神主孫時仍番ニ可入由、内々向井殿シテ尋処ニ、穢ニモ未出仕如何由

被申トモ、神役之儀尤可然トテ入了、一段成人也、十五才

番帳清書祐紀へ憑申者也、

一正真院殿ヨリ初物トテ到来也、

一從左近左衛門草花色々并豆アマ一裹五六十到来了、

一彦六見舞トシテムスコ召具来了、筆二対、赤飯一箱持參了、筆則識之、

一段吉也、赤飯ハ部屋・采女殿・正真院殿・甚七母所へ送之、内衆無

残賞翫也、

一才六大柳生婦ニ阿治佐比一本持来了、一段見事也、北南両所ニ植之、

白ツ、シ約束シタルト云、庄屋善右衛門（マ）ニ有之ト云々、

一サワラ木從金勝院持せ給了、則西ノ方ニ植之、祝着々々、

一廿八日、金勝院月次、從朝飯出座、頭役宗治、酒・茶・菓子種々其

外看色々、念入タル馳走也、終日慰共難忘次第也、

同、^(三三九)廿九日、雨也、
少雨、

一晦日、
庚申

六月大

一一日、旬如例、不參故神前之式不記之、

一句菓子、串柿・山芋・枇杷、

一塩引代鮑・干鮭代鯛、焼物鮎鮎当年始而備進之、

一正真院經忠一廻過テ除服、河原ニテ髮洗コリカキテ社參也、

今日吉日トテ元服、髮切事時広約束ナレトモ、去十三日死去之間、予

被頼而沙汰之、小刀二つ送之、其外当旬御供・樽一荷遣之、御神供已

後振舞也、^(三三二)權神主殿・若神主殿・形部少輔殿・今西殿・予・種々馳

走也、抑留故晚迄枕ニテ雜談也、中段入廻也、晚ハ所望故麦飯也、一

段出来也、度々酒也、形部殿加冠ノ副役、髻トリ・烏帽子着事悉皆沙

汰之、其後直垂、新調ノ大小ノ刀差之、各同道ニテ社參、祝儀トテ餅・

酒一献有之、若神主殿御出也、

一帰宅後為礼經忠來臨、^(三三三)兩種^{スシ}・チマキ、樽一荷、其外紙三束持參也、

同、寒酒ニテ祝儀沙汰了、

一一日、牛福四郎右衛門來臨、古酒一樽持也、永俊・三右衛門同道、酒

進之、京ノチマキ・スシ以下出之、來五日興行之脇沙汰之、若神主殿

知音故御出座、第三沙汰之、一順次第二廻之、^(三三四)

一三日、毎月祈禱於船戸屋有之、^(三三五)頭役五^{祐為}・六^{祐長}、鈴一双・肴兩種、

祐長分従是調進、猶従上衆酒肴用意、祐長忌中也、祓授之事若神主殿

同、ニテ沙汰之、予モ不參也、

一四日、若神主殿ヨリ祈禱トテ日中飯膳・鈴送給之、重々肴也、心靜ニ

賞翫了、

一正真院殿衆振舞、日中飯沙汰之、鮎一味也、

一左近左衛門為見廻、菊・石竹・鈴一双・スヘリ^(三三六)菟一盆持參了、何モ懇

意也、則酒催之、一段之吉酒也、

一五日、牛福四郎右衛門興行、発句所望、雖及斟酌、久敷煩テ在京、本

服シテ下向祝儀トテ達而懇望故、從朝飯出座、八時分ニ満座了、

同、一六日、当番代官ニ師信雇者也、參籠モ頼入了、左馬助一廻之間、^(三三七)

一円正預代二雇申者也、礼式來秋可申談故約束了、

一昨日為礼四郎右衛門來了、白布一端持參了、

同、一七日、当番不參了、代官師信參勤了、

一從神主殿御使、將軍若君竹千世^(三三八)樣^(德川考也)當所為見物御越之由申候条、社頭

掃除之事可申付由、從寺門申來由也、則当方分職事ニ申付了、

一祐父御忌日、学順房齋ニ來也、

一弁才天十六味、如嘉例供之、

一正真院殿十六味頂戴トテ參了、今日吉日之条、祓相伝了、

一終日正真院ニ有之、晚麦飯振舞也、官位之事競望之間、職原抄相当、

大膳亮代々付來候間、不相替可然ト申了、又其外神祇少副・^(三三九)修理助・

右馬助ナト意次第可申、先々從五位下叙爵申上了、一門様宮様ヨリ被

同、仰上由也、

一八日、当番代師信參勤也、

一林造抄借用分正順房へ返遣了、其次又申遣了、^(三四〇)

同、一九日、当番代官師信參勤也、參籠モ沙汰之、

一サシ物ノ大工西殿被召具、從早朝御出也、間中余ノ船沙汰之、老後慰

二小魚ヲ可飼用也、早々日中時分ニ出來、一段ノ手早仕立見事、一滴

不漏、則水ヲ入テ、魚遊之様ヲ西殿御意見ニ任セ申、古石三四置之、

其才覚共奇特也、一時モ急キ所望処ニ早速成就、満足也、西殿御キモ

入故也、御芳恩也、又板之残有之間、小船ヲサ、七申候処、漸時之間

二出來、以上八已前ニ出來、^(三四一)一段達者也、方々へ被召寄無寸隙、尤也、

隨分之上手也、

一甚蔵・小佐久一野院へ行テ、イカニモ小キ魚廿ハカリ持来ヲ先々放之、遊魚之式先以□也、

一十日、当番代師信參勤、參籠モ沙汰之、

一今度將軍様御父子御上洛ニ付、日本国諸大名不残在洛也、当所御見物

ニ可有御下向歟由及沙汰故、社頭・寺中掃除一段念入也、社頭・社中

手取分在々人足召寄、社中各々檢知シテ、此中掃除也、別而精入故見

事ト云々、当家ヨリ下部遣之、其外奈良中里外所々迄掃除沙汰之、寺

中ハ方々ノ衆所々請取テ、寺僧衆自身及檢知、此間沙汰之、一段ノ見

事ト云々、真砂ヲマキ、以外之念入事也、社頭モ于今至□皆々社頭ニ

有之テ念入ト云々、

一西剋雨、終夜不止也、

一十一日、旬如例、不參故神前之義不記之、午剋ヨリ晴了、

一十二日、社頭掃除未相調トテ、日々下部出之、

一今日御神供向井殿へ遣之、

一橋左衛門為見廻竹子一把持參了、則左馬助へ遣之、彼ヨリ豆腐十丁到

来、方々音信ニ来テ有之由也、

一十三日、時広命日於金勝院追而興行有之、金院種々馳走也、從朝飯

出座、執筆左太郎、懷紙為清書也、人数、祐範・実光・祐紀・延通・

永俊・宗治・正桂・正知・永世也、各自也、

一十三日、今日モ社頭トテ下部遣之、御神供又出之、

一十四日、社頭今モ掃除、下部出之、

一社頭掃除、今日ニテ盡々成就、珍重由、若神主殿・向井殿被御察而

演説也、此中御辛勞不及是非也、何処モ一段見事、近代無之由也、又

將軍様へ御礼近日之条、寺門・社家・禰宜十一七日ニ上洛、社中使

新殿・向井殿也、今日於神主殿祓以下用意、各參会ニテ被示合由也、

次ニ紀伊国中納言殿へも御礼可申由也、寺門并禰宜モ御礼之由也、社

中残而ハ如何由也、尤也、

一東九条百姓小魚被持下、小鮒・ハエナト四十疋有之、則舟へ入之、夕

ヒラコト云魚可持来由申付了、聽而近所ノ川ヲ求メ可致持參由言上

也、

一十五日、左近左衛門菊見振舞、八時分若神主殿・大東殿・金勝院種々

馳走也、鮎有之、日入テ後園花下ニテ遊覽、御酒肴濟々也、園ノ柚・

木瓜キウリ翫之、又座敷へ帰テ酒有之、

一從金勝院白瓜・茄子・サ、ケ等給之、東九条ヨリ魚持来、夕ヒラコ一

疋アリ無之由申、如何、

同三六

一俄ニ各上洛、采女殿上洛、是ハ若神主自分也、前モ御礼申タル、其首

尾也、天氣快然、

一昨日、為礼左近左衛門菊三本白・黄・紫到来、一段見事也、懇意也、

一十七日、將軍様へ大名衆其外諸礼有之云々、進物之事及聞ニ、言語道

断也、美麗雜作一々申モ中々愚也、

一十八日、西下剋上洛衆下向、將軍様へ御礼昨日十七日被申上云々、進

上物、千座菰・杉原三束也、嘉例也、新殿・向井殿使也、衣冠也、

一寺門衆使節、窪転經院・花嚴院、曝布三十端進上也、

一禰宜衆御礼手前最下ニ有之ト云々、下賀茂後最末ト云々、

一寺門衆、自分御礼衆数多也、一束一本進物也、洛中洛外諸衆出家御礼

一束一本也、此御礼以後寺門・社家有之、

一十九日、早旦、大柳生順実来臨、鮎十持參了、極暑故夜中ニ被出

由申申之、煩之式養性之故也、覚悟之様可加意見也、

一廿日、於鶴女忌日、祐勝房齋ニ来臨也、宗專者服中不来也、

一從東九条川魚二桶上之、小鮒其外小魚万多也、重而不可有持来由申付

了、夕ヒラカ一切無之、

一向并殿約束ノ川魚被持了、コレハ大略タヒラコ也、此時分水ノ替ニテ無之、秋ニ成テ可召寄申合者也、晚炊成次第ニテ御酒催之、今度御礼之式、具ニ演説也、一段洛中静也ト云々、売買ノ物共何モ事外往来心静躰也、酒ナトモ(三六)

同、一廿一日、旬如例、不参故神前之式不記之、
同、一廿二日、従正真院殿鮎三到来了、

晚ニ成テ雨也、

一廿三日、悲御正忌日、学順房齋ニ来臨也、良勲房・祐勝房齋ニ申入了、良勲房晚迄御出也、粥申付了、

一廿四日、地藏講頭役予、経木十把四十本ユイ・イリ大豆・キリコ・茶一器出之、雨故不出、御経取寄、二把書写之、

一廿五日、奈良中札ノ往来、俄ニ停止了、其故ハ將軍様御家中衆金銀ヲ以テ物ヲ可買由、被申候処、奈良中ハ札ヲ用、金銀ノ往来不成由申テ及諍論、依之左近殿札ヲ被召上、札ノ往来禁制ト被申付了、此故

此中トリ置タル札盡々被取返了、忿々也、
一月次延引了、宗利在京故、下向次第可有沙汰也、

一庭前之木ノ枝茂リタル処々材之云々、
一廿六日、昨日將軍御参内云々、

酉剋采女殿下向、將軍様へ御礼被申之、其外近比出頭衆へ少々礼ト也、御参内乍余所見物ト云々、御身ハ御乗車、諸大名・諸大夫等冠装束・騎馬ニテ供奉、事々敷儀式ト也、

藤菊殿此中京都ト二御出、同道シテ下向、御方様同前、此間城忠兵衛宿也、孫ヲ祖父・祖母自愛不斜ト云々、藤菊殿ミヤケトテ餅六十被持了、事外成人也、一段息災也、

一廿七日、高安太郎左衛門為見舞来臨、久敷無対談、漸時雑談也、振舞可沙汰由、再三雖被申、行歩不自由候条、他出一円不成由申返了、

何も沙汰ニ成了、有増也、

一廿八日、三郎右衛門鈴一持参了、
一廿九日(三八)

一晦日、臨時参了、名主不知、拝領無之、神供打捨テ有之由申了、宿直尋来、参勲之番衆若輩衆ニテ着到不及礼明之由申候、則着到召寄披見之処二七・八延倫也、此前五・六迄拝領也、乍去備進之処不知、恒例・臨時不分明之条、神主殿歟権神主殿歟へ可尋由申付了、着到遣之、

七月小

一一日、旬如例、不参候条神前式不記之、鈴一一双正真院殿ヨリ到来了、八時分嘉例節供祝儀沙汰之、若神主殿・今西殿・正真院殿、采女殿服中故別火ニ申付了、若神女房衆、今西殿・正真院殿女房衆モ御出也、

二日、諸白二天兩瓶・丸山一ひしほ小食籠一到来、梵天瓜二十、従喜多院さま拝領了、

同瓜五采女殿ヨリ到来了、

善春為見廻尋也、諸白一樽被持了、近比思立テ源氏ヲ書写ヲ二三帖被持、披見候処、扱々見事言語絶了、手跡ヨシ、双紙ノ躰當時ハ不可有之、一筆可然由申渡了、少々助筆ハ無用也、桐壺卷口二三枚所望也、難成由達而理申候へ共、後代形見ニ是非ト懇望也、先折紙預置了、末ハ左馬助書統様ニト也、

一雨故、明日連歌延引、重而天気次第也、

一三日、従暁天大雨已刻止了、時広忌中開了、左馬助未帰也、振舞在之歟、従奥殿後園瓜十一送給也、一段見事也、

一四日、永俊早々来臨、月次伺也、只今従是可申入覚悟也、各々尋返事可申由ニテ、ヤカテ各々同心ノ返事アリ、ウツクシキ懐紙送給、

一内記ヨリサ、ケ・茄子一籠到来了、

一三折斎ヨリ梵天瓜^十・鈴一双送給之、酒去年以来念入タル壺中候由申
来了、則可有吟味者也、

一茂兵衛ヨリ瓜^{十一} 到来了、

一諸白一樽宗治ヨリ到来了、
天晴

一五日、月次沙汰之、朝飯ヨリ出座、正順房・永俊房・宗治・正桂・
宗利・予迄也、正順房鈴^一・御持了、八前二満座、枕ニテ晚迄各雑談也、

一執筆お成、懐紙見事也、手跡吉也、懐紙各再見、糺明了、

一六日、当番代師信勤仕之、参籠同前、予老躰、神役難叶故也、左馬助
者親ノ服中也、暁天索麵、役人両惣官代也、

一七日、祐父御忌日、学順房斎ニ来臨也、

一御節供如例、日並朝夕・四種・西殿庄節供代、神戸・大庄・小庄、
(三九)音楽有之、一ノ御殿日並朝夕樂所へ下行、

一今日急故御神供早々備進、当神主殿念入故也、不参条神前式不記之、

一為祝儀従宗治諸白両瓶到来也、

一為祝儀紹意ヨリ諸白両樽到来了、

一奥殿ヨリ鈴一双送給之、

一如嘉夕飯^(一)ニ職人神人衆来臨也、

一御神供以後ヨリ雨下了、
天晴

一八日、当番代師信、参籠同前、

一嘉例大神主殿日中飯、惣社参会、予行歩不叶故不参、然者可参由使也、
最前言伝ニ申入候、行歩不叶間不可参由返事也、内々若神主殿・正真
院殿ニテ申、不屈者也、
(四〇)

一從三折斎約束之白砂持給了、魚ノ舟ニ入テ一段見事也、

一九日、当番代師信参勤、参籠モ沙汰之、

一清祓致勤仕通、南郷常住案内ニ来了、

一南郷新左衛門桑柄团扇^{一本}持参了、左馬助へも同前、

一從正真院殿盆ノ魚^{五サシ} 到来了也、鯔ノサシ也、当年ハ鯖邂逅也、何モ
同前、

一社頭清祓ノ事、条物ノ義ニ付テ四月ヨリ至于今延引也、於此分者、神
慮如何、笑止之由、花厳院嘸ニテ六石六斗尤之義ナレトモ、時分柄寺

ニモ無物故、神供モ難調、及借物之条、彼院達而今升五石ニテ清祓勤
仕、可畏入、公儀及申事候者、自他不可然由、内儀ニ付、種々被申嘸

故、各同心、当分難調候条、只今半分式石五斗可相渡、残半分者、秋
早々可渡遣由堅約束、則彼院出状沙汰之云々、式石五斗之通、銀子ニ

テ渡了、八木ニ取替各配分也、何かサシ引テ、其中壺石八斗九升二合
両惣官分、此ワリ四斗七升五勺ツ、両惣官^(四〇) 拜領之、権官次第ニ配分

之、ワリ形権神主役ニテ沙汰之、

一常住分一処之通、被相渡処ニ、三所ニテ勤仕之条、一処分者迷惑之由、
歎申、尤也、然者三所之分可有下行由、各同心也云々、常住申分不及
是非事也、

一社頭二所・野田東口一所、三所也、供物モ三所備進之、

一主計ヨリ瓜^十 到来了、

一左近左衛門尉ヨリ瓜^十・不老サ、ケ一結到来了、

一十日、当番代師信参勤、参籠同前、

一十一日、句如例、不参故神前之式不記之、

一嘉例祝儀振舞沙汰之、若神主殿・向井殿・今西殿・正真院殿、奥殿へ
ハ膳・肴・鈴一送之、若神御方様・宮一殿・正真院殿女房衆御出也、

一別火方、治部殿父子・采女殿・惣一さま・愛藤様・左馬助、一処二別
火申付了、
(四一)

一御神供以後、廳而中飯沙汰之、各晚迄之振舞也、

一十二日、正真院殿嘉例之祝儀アリ、八時ヨリ夕飯振舞也、

一社頭掃除昨日被申付、成立タルト也、將軍様昨日郡山へ御越也、今朝

- 何共無沙汰也、
- 一 団扇桑柄一本梅木持参了、
- 一 団扇一本桑柄、醬一重從正順到來モ念入タル事也、
- 一 墓參沙汰之、供物持遣了、出家学順房也、
- 一 十三日、瓜嘉兵衛ヨリ到来了、
- 一 大納言御息様御京着ト云々、伏見城ニ御座ト云々、事外多人數ト云々、
- 一 花一枝・瓜宗治ヨリ到来了、
- 一 十四日、玉祭沙汰之、供物種々著立之、
- 一 十五日、御節供、乙木庄備進之、正預沙汰之、不參故其式不記之、心太備進之、音楽無之、
- 一 權神主殿御見舞瓜被持了、沙汰申之、
- 一 十六日、若宮神主殿鮎三到来了、見事也、
- 一 從正真院殿園ノ不老サ、ケ一盆到来了、
- 一 能登鯖少京より下、風味一段也、別也、当年者当所ニ一円無之、皆々アチヲ用之、
- 一 十七日、未申ヨリ大夕立、此中不降、一段吉也、
- 一 十八日、新殿・向井殿大納言様へ為御礼上洛了、銀子四十目余引替遣了、
- 一 美濃紙十一束余召寄、則銀子遣之、幸向井殿上洛也、土佐様・喜右衛門方へ申遣了、
- 一 十九日、
- 一 廿日、前惣一殿、鶴女忌日、宗專房月経ニ來臨、斎相伴也、祐勝房齋ニ來臨也、從正真院作茄子十余到来了、
- 一 京都ヨリ帰了、大納言様へ御礼未相知由也、今日二条へ御座由カ□□
- 一 使衆者伏見へ被越可待由也、飯米取ニ來了、
- 一 美濃紙十束下了、前ヨリハ紙可然由申之、
- 一 廿一日、旬如例、不參故神前式不記之、前日出納及案内了、惣別盡々相調早キ時ハ不及案内、近年毎度案内申之、代ニテ備進物有之故也、何ニテモ代物備進候時案内申事先規也、不及案内代物備進候事、一向不謂曲事也、旧記儘也、
- 一 菓子桃・アコタ瓜・今一種赤小豆切餅代ニ備進之、
- 一 塩引代鮎・干鮭代鯛・焼物鮎十一備進之、
- 一 甚七鮎振舞了、三ツ賞翫也、懇意也、
- 一 日中以後大夕立也、大雷万民消魂畢、事々敷也、但一度大鳴以後靜了、
- 一 廿二日、佐久衛門ヨリ鮎三到来了、
- 一 廿三日、悲母御忌日、学順房齋ニ來臨也、
- 一 ツケ瓜甚七母ヨリ到来了、
- 一 良以為見廻來臨也、新古酒鈴一雙ツ、被持了、何も風味無比類也、古酒殊更也、時分柄一段珍物也、則對酌了、漸時閑談色々不審共也、徒然ヲ慰了、炎天時分遠々尋□へ也、懇意也、
- 一 廿四日、地藏講へ不出了、後剋ヨリ雨下、八專入丑日也、
- 一 正真院殿ニテ枯たる竹四五本申請、權ノませ沙汰之、
- 一 祐勝房蔵ノ餅五持参了、一段珍物、別而賞翫了、
- 一 廿五日、園トテ從治部殿茄子十余、不老サ、ケ一結・あさ瓜二到来了、
- 一 大江庄や八朔為礼ツケ瓜十持参了、
- 一 中城庄屋八朔為礼鱧三本持参了、
- 一 祐勝房鏡のヤキ餅二持参了、一段珍敷風情吉也、一ツ賞翫也、此辺久しく退転也、昔被思出了、
- 一 廿六日、京上衆昨夜被帰也、御礼調たる歟、未対面様子不知也、
- 一 廿七日、八朔為礼東九条庄屋麵五把持参了、酒給之、
- 一 出納孫左衛門子梅千世補任出之、任料今日ニ可持通也、式石四斗上之、

一段結構之沙汰也、補任出始ヨリ如此事無之、依以下迄不及侘事、勿論一粒モ無所望也、珍重々々、

一 為祝義左近左衛門ヨリ麵五把 到来了、

一 主計ヨリ鮓五 到来、

一 茂兵衛ヨリ鮓五 到来、

一 白瓜十 向井殿ヨリ到来了、

一 久助ヨリスシ五・不老二把・桃一鉢・鈴一 到来了、

一 東九条彦九郎麩三把持參了、

一 去廿三日、御参内ト云々、進上物式本、内裏末々迄公家門跡盡々大御所様秀忠之時同前ト云々、当社御礼廿五日ニ相調了、杉原三束・穧千座進上了、方々御礼ソレレ何ニテモ進上也、其人々ノ道具不依大少ト云々、

一 將軍宣下有之、大臣ハ達而御斟酌ニテ、大納言大将ト云々、

一 大御所様太政大臣ニト叡慮度々也、然共御辞退ニテ左大臣ニ御転任ト云々、

一 廿八日、大柳生庄屋善右衛門為礼麵十把持參了、

一 麵三把市助ヨリ到来了、

一 麵十把・鈴一・双三郎右衛門持參了、

一 鮓五・不老サ、ケ二把正真院殿ヨリ到来也、

一 スシ五奥殿ヨリ到来了、

一 スシ三三ツ勘三郎ヨリ到来也、

一 タウフ五丁今西殿ヨリ到来了、タウフ二丁祐勝房ヨリ到来也、

一 十日檜物屋一郎ヨリエソ十・草花色々到来、每度懇意也、

一 若神主殿ヨリ鮓五・遠来花ひら一盆到来、何も一段見事也、

一 若宮職事庭主典鮓三到来了、

一 見事ノウチ丸三・彦六音信也、大根ツケ二本、新六、

一 野田民部ヨリ鮓三到来了、

一 スシ三、左三郎ヨリ到来了、

一 スシ五、久次ヨリ到来了、鈴一・双一、權ノ四郎右衛門ヨリ、

八月大

一 朔日、旬如例、不参故神前式不記之、

一 旬菓子桃・アコタ瓜・今一種赤小豆餅代ニ備進之、何共不及案内、何ニテモ代ノ時ハ案内申事先規也、

一 塩引代鮑・干鮭代鯛・焼物鮎十一 備進之、

一 天氣故參詣群集ト云々、

一 麵五把采女殿御持せ也、

一 麵五把、主水ヨリ到来、左馬助返事沙汰ト云々、

一 若神主殿今度相楽殿ツクシへ御礼アリ、此仁者從往古若神師壇也也、其子細、於江戸金剛七大夫理申、則自他書物被見合也、昔之証跡髓也、一段祝着也、今度將軍様為御供在京也、向後先代由緒無相違可得御意通也、此事覚情上人之時被申通故、若神被引合可被遣由、雖加意見、無同心テ相過了、今七大夫内証能々被申理テ相濟了、上人者帰依僧ニテ祈禱沙汰之、年中過分之施物被送之、当所へ被越時者、每度櫛屋へ見舞也、相楽殿久侍也、備後也、代々知行所無相違、古城以下見事ト云々、

一 一段名譽ノ家也、昔無隱能書也、

一 酉ノ剋ヨリ終夜ソ、ク、

一 ウナギ十大東殿被持了、

一 一二日、雨下、午剋ヨリ晴了、

一 本院古僧正御忌日、白毫寺參詣了、喜院様御再興以來始而也、一段見事也、惣門出来、道モ前二替リテ西ヨリ入道被差塞、其壇下ヨリ南へ行廻リテ南ヨリ正面ニ本堂へ参也、南ニ門出来、西ノ方ニ如昔熾摩

堂、其北方ニ沙弥宣旨所^(x)ニ廊ツ、キタリ、何モ瓦葺、一段相当之躰也、焰摩ハ未無安置、本堂ニ御座アル也、本堂仏壇以下不首尾、大方出来之躰也、奇得^キノ御再興也、

一堂ノ縁ニ枕ニテ休息、持参之餅・酒取出テ賞翫之処、正真院持せ鈴・肴箱種々也、大豆・クルミノ餅一段殊勝也、再三味之肴種々也、酒新古アリ、新酒別而風味勝タル故、度々給之、召具タル者共乗物昇迄餅・酒満足也、帰ニ辰巳坊へ立寄、「留守^(四六)ニ餅・酒給之、坊主ハ今朝ヨリ下山、于今無帰寺、残多也、様子申置、罷帰了、寺前之景気昔ヨリ寄□也、眼前ニ南西一国目下也、近山之松、谷々ノ松茂リ、其外草木森々タリ、言語道断也、路次中モ昔ヨリ坂柔和ニシテ登山ニ苦勞少キ也、

一 帰宅シテ麵申付、賞翫之、一段吉也、正真院殿・祐勝房・於鶴女^(マ)・佐久衛門相伴了、終日慰了、乍去以外草臥也、路次中田家之躰、涼風うき世を忘了、

一 三日、鮎有之、鱸ニ調味了、社頭稗有之、不参了、

一 祐勝房蕨ノ餅^二・センヘイ持来了、蕨一段風味吉也、

一 四日、雨少ツ、ソ、ク也、暁天ヨリ大雨也、

一 五日、高山八講ヨリ為見舞妙徳院御尋也、麵^{十把}被持了、餅・酒申之、今度煩申事御物語也、内衆弟子新発意^(振カ)二人被召合、衣服以下其外諸道具、重宝教寄之道具迄皆々被相京取了、内衆事ハ尤也、真実之弟子

二人、私之段言語道断也、無曲次第也、乍去不及礼明也、妙院大様至也、摩尼珠院モ先代之少ツ、未下札を尋出、及算勘、八木五十石余被勘之、時分柄見懸余ナル沙汰、比興々々、不足也、義理・法度一モ無之、哀々々、

一 三折へ疵葉申請ニ遣了、則付葉・膏葉到来了、
一 六日、当番代師信参勤了、参籠同前也、晚ヨリ夜入雨也、

一 七日、祐父御忌日、用所トテ学順房斎ニ無来臨也、同、
一 八日、正桂脈ニ来臨也、日中飯用意、相伴ニ宗治来臨也、「鮎^(四七)振舞了、枕ニテ終日雑談、晚ニコツケ用意了、

一 九日、正桂へ礼書遣之、一葉召寄、二包到来、自分之療治如何之由申候条、如此也、

一 宗治ヨリ氷サタウ到来、昨日鈴持せ了、礼書遣、昨日ハ慰トテ祝着也、
一 雨同前、夜明テ晴了、

一 十日、当番代師信参勤也、参籠同前、

一 將軍宣下以後、去六日御参内、輦儀式言語道断ト云々、
一 淳和奨学両院別当氏長者征威^(夷)大將軍上二位内大臣源朝臣家光二十才、

一 伏見城ニ御座、前將軍者二条御所へ御座也、京都ノ問往反無是非ト云々、聽而御能可有之由也、

一 所勞無異儀、正桂へ葉取ニ遣之、

一 為見舞正順房・永俊房御出也、鈴一双正順房持せ、麵五把永俊房持せ也、草臥故無対面、左馬助内へ申入テ、心静ニ雑談也、

一 十一日、旬如例、不参故其式不記之、

一 菓子梨子・桃・今一種赤小豆切餅備之、

一 塩引代鮑・干鮭代錫・焼物アユノ鮮十一ト也、

一 十二日、若神御方様ノアソ五、ウスカハ十五送給之、

一 十三日、從金院マン十五送給之、

一 マン十マン十五若神御方様へ送之、

一 宗治為見舞クシラ一鉢持参也、一段珍味也、

一 十四日、宗利此中者□東下向トテ見舞、鈴一双持也、無対面、左馬助シテ礼申遣了、

一 宮一殿ヨリ祐勝房使トシテ、フトシ一帖送給之、面木綿アサキ、文コ

マカナル文付タリ、ウラ木綿ウス草ニ染タリ、中へ木綿ワタタフく
ト入タル物也、則返進可申候へ共、別而御志ノ由承候条、留申候、我
等モ此比煩、寒氣成行候ニ、御志別而過分由申遣了、当分先疊ノ上
ニ置之、吉也、是ハ去年七八月比痢病以外煩也、諸医師不叶、予依療
治平愈也、此外蕨餅一箱給之、是者各々賞翫之、種々御懇情之由祐勝

房ニ返事了、
一十五日、名月散々也、正桂迎ニ遣了、煩無異儀レトモ、終夜月不見、
無曲也、

一十六日、正桂へ菓取ニ遣了、順式只今無異儀也、
一將軍様去七日御参内、其後諸大名御礼、銀子千枚五百枚其身知行次第
也、五万石知行取已下者御礼計也、

一十八日、正桂迎ニ遣了、煩無異儀ナケレトモ、
一十九日、煩無異儀、正桂へ菓一包取ニ遣了、
一昨日、將軍様大坂へ御越也、終夜大風也、夜明て止了、

一〇日、御「」へ「」山へ御出也、「」へ御出也、
一廿日、於鶴女忌日、祐勝房齋来□専□他行、
一廿一日、旬如例、菓子、当へ御越ハ不定也、堺へ御下行云々、

一廿二日、「」
一廿三日、祐父御忌日、学順他行、齋ニ不来、祐勝齋ニ来臨也、「」
一廿四日、白紙

養父前正預從三位祐範去七月比ヨリ勞煩、終ニ無本服、閏八月一日子
刻ニ逝去了、此記去八月廿三日迄被記了、老後長病之内寄特無
比類事也、後代可為明鏡者也、

一二日、酉ノ刻ニ葬礼取行之、其式去月廿六日ニ予・同彦右衛門尉・
甚七・甚歳等ヲ呼寄テ遺言也、コシヲ新クサシテ、其上ニ日比神
前へ着シタル袍ヲ打カケ、上棟ニ榊ノ枝ヲサシ、同コシノ前へ小作ニ榊

ノ枝ヲ持せ、立烏帽子・淨衣令着用可遣之由也、コシカキハ彦衛門
尉・甚七、エホシ・イ口直垂ニテ可令隨身、其外引導人、灯呂・行器・
花等之諸役者、女房衆以下同出家衆、数多出之事堅不可有沙汰、名聞
カマシキ事、外聞如何ナト云テ、此遺言ヲ返々不可背之由、被仰置之
間、其式少モ不違令沙汰也、西大寺尊胤房子親類之間、忌中籠^{五ウ}僧ニ
カタラヒ申之間、則葬礼之時被遣了、其外出家衆等一人モ無之、町衆
少々出之、葬礼之事日比之名匠学問等之験、此度猶以頭之由世間取沙
汰ト云々、但又且ハ予非実子故疎略ト云者有之由、取々風聞也、無是
非物也、

一予七歳ノ冬ヨリ当家ニ入来了、廿五六年之間ニ一日モ養父母之勘当不
免等無之、臨終見遂事別而満足也、殊ニ去廿七日ニ、哥道之大事等無
残伝受、但古今集之儀者、四十以後猶々口決之箱ヲ開可見之由、許状
ヲ給者也、祐範筆執難叶之故、若宮神主殿祐紀助筆、判形ハ自身沙汰
也、色々之大事等如此伝受之事、予不勘之躰、殊ニ不及礼式之仕合、
神慮冥迦之程如何ト朝夕不安者也、猶以当社之御威光祖親之可信仰靈
魂也、年来之恩徳難報事、今又家財等拜領、返々冥迦有恐事也、

一神主時広去五月十三日死去、当職時家未拜賀之内、又々正預不慮之儀、
言語道断不思儀之仕合也、諸式時家兼帯、御神供等未補ニ付拜領也、
就其舟戸屋ハ辰市支配之儀也、然者水屋社小神供彼屋之留主居取之事
無紛者也、今度未補ニ付、神主時家方へ被押取之由申之間、以內証
色々雖理、無之同心也、則六日ニ予以使申届子細ハ、彼ナウライノ事
自前々限之、未補ニ不落之由承了、但只今予忌中之間、社頭旧記以下
可撰様無之候、追而可懸御目候、早々被相渡可然候、但其方ニモ被取
付候旧記有之上ハ、無是非候、追而相方見合可得御意之由申遣了、返
事ニ云、神主職近々所持之故無案内也、但其方記禄不及拜見者、水屋
神供之儀ハ被渡間敷之由返状了、先以其分ニテ置者也、此儀者上

古二モ事外出入雖有之、辰市申分相立未補二不落之由、慥二聞伝候也、追而穿鑿可申者也、

一正預当職上神宮預延豊拜任也、但閔白殿九条殿去八月末二御職御辞退也、当職未定之由ニテ長者宣久々延引也、其内二時家未補二付、当知行納所過分二有之由笑止也、併延豊今少不仕合也、

一今度將軍御上洛二付、南郷牧務大東延通下禰宜藤左衛門尉、出納并膳部重職之申事、未落居之儀ヲ此度可決之旨、彼藤左衛門尉同親類共野田筑後神人色々及訴訟之故、御奉行年寄衆より召状ヲ付候間、則延通朔日ヨリ上洛了、中坊左近殿南都諸司ヨリ惣社中へ自然御尋之儀可有之、二三五人大東ト令同道可有上洛之由、被申越候間、若宮神主祐紀・新祐為・中東時昌・向井師信等同道了、閏八月十日ニ御寄合之御公事對闕了、再往之不及申分、禰宜筑後曲事之由被申付、失面目退出之由也、膳部職ハ重代無紛ヲ出納同事ニ不被申付候者、持間敷之由、右二申之間、只今弥々両職共以改易也、下トシテ上ヲ計之条神慮今以直也、可仰々々、

一雖重代職其神人家不在又曲事有之候時改易之例古今及數度、旧記等明鏡也、此以後猶以可為其通候、

一閏八月十八日ニ彼水屋小神供舟戸屋留主居理運二取之候旧記、延通ヨリ才覚之条、此方家之記不及尋、神主時家方へ神人三郎右衛門尉ヲ以先例慥二有之由申処ニ、(五三)此上無申分之由ニテ、則今日ヨリ彼留主居方へ被渡了、同右二十八杯被取籠分返シ給者也、併神主不堪候故、如此之沙汰事々有之事、笑止也、末代二モ神主正預職之替目ニ此ナウラ(五三)イ之事カマイ有間敷物也、

一九月一日ニ神主時家拜賀有之、越近来結構之由也、予方へ両錫・柿卍・餅卍、折紙相添送給了、
同内儀へ錫一・柿廿・餅廿、同当息藤福へ同前、札ヲ相添送給也、順

録ノ代式石之内卷石用捨□此内四斗ハ報答也、

一三日、当家忌申仕奉、法花同音十部、五句之作法随分力尽沙汰了、
一四日、新権神主時久(文家)拜賀有之、順録一円二指置了、錫一双・餅廿送給了、同内儀へモ藤福へモ小錫(四五)一ツ、餅十ツ、被送之也、

一五日、堂場開ニ尊胤房来儀、御斎用意之、
一六日、中陰礼ニ甚藏遣了、樽一荷・兩種餅十把・銀子廿五匁遣之、使二御酒給之由也、

一竹田坊へ医断礼ニ參了、五十疋・麵子十把持參了、同若宮神人甚介妻死去ニヨリ忌申之間、令同道、称名寺・眉間寺・五劫腫院等へ參詣了、
一七日、矢田寺へ參詣、彦衛門尉同道、然二跡ヨリ彼彦右衛門尉女房沙汰敷、餅・錫・水風呂(初)・肴色々持せ道迎了、西京薬師宝前ニテ取々賞飩申也、西京地藏院長厚房別而知音之間、呼二遣了、濟々御酒以後、東之観音堂開帳拜見、(五四)堂内仏像・御殿并境地等無比類見物也、

一九日、御節供、今日三橋五六拜領、当家忌之内ナル間、若宮神主殿へ遣之也、日並等少々遣之、又方々へ音信二モ遣之、当月ハ鏡明神主刑部へ一殿遣之、為祈禱也、從前々如此也、同梅木宗大郎二今日之日並御供給之、□□父時広病中奇特二看病仕候間、又祈禱旁遣之、一段不弁之躰也、

一神宮預延豊正預二転任長者宣去月廿一日到来候由、追而聞付者也、神宮預職同息延高拜任、十六才ト云々、但非実子、大中臣時久ノ次男也、南郷方衆中男子無之故如此也、正預方職人・膳部・出納、其外諸職不依大小、十ヶ年廿ヶ年以前ヨリ少々礼式ヲ取、約束之由也、言語道断比興之儀也、就其、今度(五五)及当座申事等有之、雖然延豊出状、判形慥候上ハ、不及是非悉持せ了、先代二モ如此之儀有之付申事有故、中比堅停止也、今以此次第外聞旁々即躰之曲事也、

一十五日、町智音之衆追善連歌於当家興行、各ヨリ色々持參共有之、朝

飯後ヨリ来臨也、

一十六日、恒例之祈禱、神主時家頭役ト云々、

一廿日、於鶴女忌日、宗專房齋ニ来臨、

一廿一日、為結縁招提寺釈迦念仏ニ參詣了、□□父子・宗專同道了、

一廿二日、当家忌明了、改火サンケ了、

一廿五日、正預延豊御拝賀有之、為祝儀錫一双・餅廿送給也、同内儀へ

錫一双・餅十五給之、藤福拜殿御子タル五五七間、可給儀也、如何、順祿

式石之内五斗指置也、但四斗ハ報答也、

一廿六日、神宮預延高拝賀有、如昨日音信給之、順祿一円指置者也、

十月大

一晦日ニ春日祭廻文有之、来四日之由也、予并時昌ハ服者トテ廻文不相

触候、先規如何之由内々相尋候処ニ、如此也、時昌ハ当季御戸開御神

供深野庄奉行也、殊以不触之事越度也、併社務無案内故也、

十一月小

一四日、庚申上卿西三条大納言殿御宿時家、上役延豊、但社頭之諸式

不參候条不知之、

一当季神事四日第二ノ申□、去十月十六日替節候条、如此也、

一八日、御八講有之、御施主中和門院当今御母子也、一乘院尊一覺皇入道親皇五

御奉行、于時御寺務也、季頭五人也、委細之記別ニ有之、

一十日、中日也、大雨、社家方副曳之出入ニ付時刻延引、薪之行道戌ノ

刻ト云々、副引不依大小社中□人別ニ追而給之、色々有之、別ニ記ス、

一十二日、三位祐範百ヶ日為追善法花同音十部勤之、

一去十日、御八講ノ時六道ノツラ南ノ方ニ醉死ノ躰有之、則穢□之間、

注連引之、

一此死人穢所、若宮祭礼御神幸路次也、清祓之事ハ卅一日已後有之、

但穢所ノ辺先以飯ニ遂祓可然之旨、惣社評定也、則廿五日ニ御寺務并

二別会へ申届、竹垣高ク沙汰之了、祓之事両常住勤之、本式清祓ハ卅

一ヶ日已後可有之者也、

一祭礼典樂頭屋、福園院勤観房沙汰之、

十二月大

一十三日、マ例年雖為今日、予精進日ノ間、十四日マテ令延引了、

一十五日、如例年仏名御齋沙汰之、良勤房五七七・専良房・北坊・学順房・

良学房・宗專房六人理趣經・羅漢供等沙汰之、少施行之、

一十七日、月次沙汰之、予定宿也、頭役祐栄八木壺斗給之、

一十八日、節分祝儀如例之、

一廿五日、御供所ヨリ歳末円鏡一面上之、使ニハ何も不给之、

一昨日当家餅付之、如例之円鏡一面神前へ元日ニ備進、南郷久助へ遣之、

一新薬師へ正月三日之行之餅五十枚・同酒代当升式升遣之、

一当年三月、若宮神主殿孫嫡子祐栄息男子誕生之間、円鏡小餅用意之、

遣之、

一廿九日、御神供正真院殿へ遣之、

一晦日、祝儀如例之、

一墨付後世五拾八枚 春日社家 大東家伝来